□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

デレクター　千　葉　雄　二

1．事業概要

本事業は、中山間地域集落維持のための実証事業として、とっとり総研と鳥取市木原集落と鳥取市と協力し2010年から取り組んできた。高齢化した小規模集落で、住民が必要とする生活インフラを住民自ら意見集約し目標を集落内道路の融雪設備設置とし、自ら費用を　するとと市、とっとり総研と協力し　めてきた。本年　は道路　　設備設置を実　し融雪　を　した。

2．本年事業内容

2．1．2011年事業

2011年　は設備設置を　　して　たが、道路の　　を鳥取市が　したと　、路　　の必要が　る　とが　した。市が　事　を用意でき　　が　り　が　　たが、道路　事業の　として年内　事を実　し、集落　自ら設備費用を　　する　とで　　できた。

2．2．とっとり総研の機能

とっとり総研の　は、中山間地域集落の維持を　　では　、集落が自ら　し　きか　、　備する　を　する　と　った。　した意　を　す意　で、集落意　の集約　で　る融雪設備設置費用の　と　る50　を　した。は　めから　と集落　を　　、す　を　の　集落　備　かを自ら　する　と　目　が　った。た　し、融雪設備の設置　、実証　中山間地域集落インフラ　デ　として　要　目標で　った　とは　で　　。

3．事業成果

3．1．中山間地域維持の行動様式

本事業の　き　は、中山間地域での集落維持のための　を、集落自ら意見集約し目　て、　を　かしたと　　る。本事業の　は　　の意見集約事業　が、　事業の　は、　で　で　り、中山間地域活　化　で　　が住民が　では　。

本事業は中山間地域　　て、住民　した　た　を　した　とが、　きと　る。集落の目　って、　が　を　活用し、目　の　を　した。　から集落　の　では　、集落から　の　活用と　で　る。集落が　　とで、　の　り　を　る　とができたと　　。

　、鳥取市が　　をとった　とが、　き　要　で　る。　の意　で、　の中山間地域　　た　を　したと　る。

３．２．中山間地域集落の生活インフラとしての融雪機器の効果

水流式の融雪設備の設置は、鳥取市では既に行われなくなっていた。一方、集落では周辺水源から塩ビパイプやホースで水を引き、路面の傾斜と長尺の木片を活用し、路面に常時水を流す簡易型の融雪設備を集落内に設置してきた。これは主に個人が利用する集落内道路を個人の費用負担維持しているもので、集落内の世帯を相互に結ぶ共用道路では設置されていなかった。集落はこれを整備することに意見を集約し、その設置に取り組んだ。

昨年までの非設置の状況では、積雪によって通行は困難であったが、今冬は設備設置によって通行が可能となった。工事は、路面改良と引水用パイプの購入・設置費が中心で、約150万円（とっとり総研、鳥取市、集落の分担）でその効果が得られた。

高齢化した集落で、積雪のつど除雪を行うことは難しく、必要時にボランティアが確保できる保証はない。常時流水による簡易融雪設備の設置は水源を利用できる集落では、有効な除雪手段であり、普及は可能性は大きい。

４．実証実験としての成果

中山間地域に関する行政事業では、実態調査や意見交換、勉強会、見学会などが中心であり実効性を伴う事業は必ずしも多くはない。本事業は集落ニーズにたって行政事業を構成することで、集落の主体的活動を支援し、集落の継続性を高めることが可能であることを証明した。

図１　積雪時の木原集落

図２　融雪用水取水口